

第2510地区 第11グループ



2005~2006

The Weekly Report of

Hakodate North R.C.

函館北ロータリークラブ会報

2005~06年度
国際ロータリーのテーマ

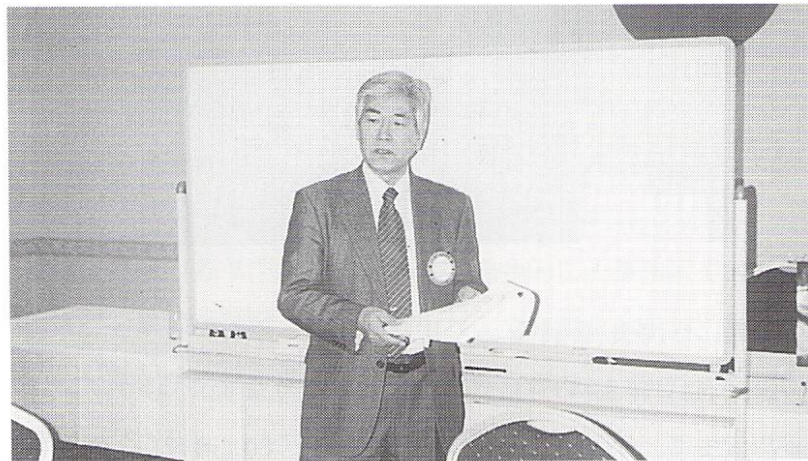
超我の奉仕



2005~06年度
国際ロータリー会長

カール・ヴィルヘルム・
ステンハマー

増田 定雄 会長 テーマ 温故知新 — ロータリーに愛を —



1月18日会員卓話 松見 修二 会員

《第2044回例会》 第27号 1月25日(水)

本日のプログラム

卓話「ロータリー100周年と日本のロータリー」

函館R.C. 亀井 敏清 氏

★会 長 増 田 定 雄 ★幹 事 増 山 正

例会場：函館国際ホテル 〒040-0064 函館市大手町5-10 TEL23-5151
例会日：毎週水曜日 12:30~13:30 事務局：函館市大手町5-10 二子ビル4F TEL23-3870

新 合 名 会 社

代表社員 新 博 夫

〒042-0935 函館市駒場町6番11号

TEL (0138) 54 - 2510

(広告掲載：新 博夫 会員)

函館北ロータリークラブのホームページアドレス <http://www.hakodate-north.org/>

◎ 1月4日出席報告

会 員	32名	出席率対象会員	32名
		出席規定免除会員	2名
		出席率規定免除会員	0名
当日出席	17名	当日欠席	15名
他クラブ出席	5名	出席合計	22名
出席率			73.33%

・テレフオンサービス(例会移動案内)電話 26 - 3170 番

次回・2月1日
プログラム

移動例会「節分 亀田八幡宮で例会」

1月18日の記録

◎司 会 柴崎 晃 副会長

◎齊 唱 奉仕の理想、四つのテスト

◎ビジター 函館R.C. 神田勝美君

◎会長報告 柴崎 晃 副会長

- 国際ロータリー第2760地区より2005年日本国際博覧会ロータリー運営館運営のお礼として銘板が届きましたので回覧いたします。
- 増山 正 幹事へポール・ハリス・フェローのメダルが届きましたので、お渡しいたします。



◎委員会報告

●クラブ奨会学委員会 新 博夫 委員長

本年4月より現在の工藤君(2年生)の外に、1名増員となります。

現在副委員長の長谷川先生に、今回は遺愛より良い生徒が居れば選考してもらいたい旨お願いしております。

◎幹事報告 増山 正 幹事

- 当クラブ2月1日の例会は、節分のお払いを行うため移動例会、又2月15日の例会は七飯R.C.との合同例会を開催致しますので多数のご出席をお願い致します。

◎親睦活動委員会 茂木 政雄 委員長

ニコニコBOX投入報告

森 会員……松見会員、無理を言いました。感謝。

南木 会員……寒いですね。よく降りますね。

佐々木会員…… ”

薮下 会員……今年初めてです。宜しくお願いします。

小笠原会員……寒いですね。よく降りますね。

中川 会員……欠席がちです。

柴崎 会員……寒いですね。よく降りますね。

松見 会員……今日は卓話です。宜しくお願いします。

藤田 会員……ヨーロッパへ行ってきました。

◎会員卓話 「構造計算書偽造について」 松見 修二 会員

建築基準法第1条に『この法律は、建築物の敷地、構造、設備及び用途に関する最低の基準を定めて、国民の生命、健康及び財産の保護を図り、もって公共の福祉の増進に資することを目的とする』とあります。

リフォーム詐欺、欠陥住宅、手抜き工事など世間では建築産業を、トラブル産業と言い換える風潮があり、今回の問題については、建築の設計に携わる者として有ってはならないものであり、思いも寄らない事で、全ての建築物に疑念が及ぶ結果となったのは、まことに残念と言わざるを得ません。

元来、構造計算は建築の設計に関して相当の知識を持つ技術者が、その知識と経験によって手計算でなしたものです。コンピューターの発達によって様々な計算ソフトが開発され、建物の特性と基礎的条件の入力によって自動一貫計算が可能になり、利便性の高いものと成りました。言い換えるならば建築の技術より作業性の向上が優先と変革したことは否めません。

建築設計は意匠、構造、設備の各部門が一体的、且つ総合的に一事務所で成し得ることが本来の姿であろうと思いますが、人材の確保が困難、経済的理由などで分業化が進み、構造設計、設備設計は陰の存在と成りました。この分業化が構造設計、設備設計が外注部門(下請け)の構図となり、安価で早いことが条件と成りました。

意匠設計事務所がメジャーな存在となり、即ち元請事務所となった訳です。

一般的に建築物を評価する場合、良い建築とするのは、意匠、デザインに目が行き、構造や設備に評価対象になるのは皆無といって良いのではないのでしょうか。

更に、設計の与条件にコストダウン、コスト縮減が常に有り、如何に安く建てるかが最大の目標となってきました。元来コスト縮減とは無駄な華燭を避け一定の機能とロングライフサイクルを保持することにあります。

しかし、今回の偽造は建物の聖域とも言える構造躯体をコストダウンの対象としたことは全く考えも及ばないことです。構造計算書を偽造した建築士に直接責任があることは明白ですが、建築に携わる企業のモラルと責任を確かなものとして、社会資産の構築と信頼回復に努めることが最も重要なことです。